

今日の説教のポイント<マタイによる福音書 21 章 33～46 節>

聖書を読んで考えさせられること二つ。私たちの姿とキリストの神。

①私の姿がここにあるのでは？

この例え話は 45 節にあるように、神の民を誤り導いた宗教的指導者を非難している話です。しかしここを読むと、読む私たち自身が、「神様が私たちのことを愛して守って下さり、必要なものを与えて下さる中を私たちは生きています。しかし、一体どれだけそのことを思い、感謝して生きてきたらうか」、と考えさせられるのではないのでしょうか。神様について書かれた書物であるということを知った上で読んで、自分について考えさせられる。それが聖書なのです。そのような自分を見つめ直す新しい機会を与えてくれる世界がある。さらにそれがどのようなものか探って行きたいと思う。そしてそこで本当に大事なものが何か分かって来る。そのために神様は聖書を与えて下さったのです！

② どうしてそのような姿になるのか？

これを読んでみると、私たちの所有欲の増大や、それに伴って持つようになる相手を憎んだり果ては殺して無き者にしてしまおうとさえ思うようになる思いが、私たちに必要なものを与えて下さる神様のことを考えなくなる中で芽生え、大きくなって来ることを思い知らされます。このことなども、聖書など無関係な今の社会で生きているときには聞いたことのない内容ではないのでしょうか。しかし「確かにそうだ」と思えて来る時に、今まで理解できなかった、聖書が語る神の御子殺しの話の意味も分かって来るのです。「主人無しがいい、それで全て自分のものとなる」、そう思った時に農夫たちは主人の息子を殺したのです！

③その姿から私たちを解放して下さる神様なのです！

イエス様はこの例えの後、人間の目には不思議に見える救いの道（イエス殺しの罪を、その主イエスを復活させて帳消しにして下さった！）を神様が用意して下さったことを告げられました（42 節以下）。43 節の「**神の国**」は「**神の支配**」、「**民族**」は「**人の集団、群れ**」とも訳せる語です。すなわち、この神様を信じて生きる者（の群れ）には、死んでから行く天国だけでなく、今この時もこの神様を覚えながら生きられる恵み（神の支配の中にある）が与えられるのです。感謝！